



paper



no.007



上田假奈代 × 小川さやか
(詩人) (文化人類学者)



オープン北加賀屋



岡昇平・山田創平
(建築家) (社会学者)



高橋祐介
(羽ばたき飛行機製作工房)



上田假奈代 × 小川さやか

(詩人)

(文化人類学者)

異なる活動領域を持つ2人による対談企画「CO-DIALOGUE」。7回目となる今回は、大阪西成区・釜ヶ崎にあるNPO法人ココルームを運営する詩人の上田假奈代氏、アフリカ・タンザニアの零細商人マチングを研究する小川さやか氏を招き、それぞれが考える「個人によるこれからの自治」についてお話いただいた。

揺らぎのなかの関係性

小川：私が専門とする文化人類学は、「そうでなくてもいい」を探す学問。慣れ親しんだ日本の価値観から生まれる関係性ではなく、異なる価値観や関係性を知ることが研究において重要となります。

上田：最近は、アフリカで研究をされているとか。

小川：タンザニアでマチングと呼ばれる零細商人を対象に研究しています。私自身もマチングになり、仲卸人から商品を掛け売りで仕入れて参与観察しながら独自の商売方法を調査していました。仲卸人と小売商の取引関係に興味があって。商品が売れなかった時、小売商はボスである仲卸人に生活保護を要求します。そのため、時には持ち逃げをするなど、ゲームのようにお互い交渉しているんです。

上田：日本の公的な福祉保護制度とも意味が異なりそうですね。

小川：マチングの場合は、「助ける／助けられる」という関係に固定化しないところがおもしろい。この取引では、仲卸人も小売商もその時々互いの不満や要求を見極めながら、期待に応えたり、敢えて裏切ったりすることで、自然と儲けた分がお金を持たない人に流れるよう帳尻合わせができていく。交渉の局面では、常に狡猾さ＝ウザンジャ(現地の言葉)を発揮することが求められています。

上田：釜ヶ崎で活動していて、狡猾さとは才能だけでなくスキルでもあると気づきました。日本の女性は嫌なことを上手に受け流すのがスマートだとされているけれど、釜ヶ崎ではその場で嫌だと伝えたほうがいい。「二度と来るか!」と怒鳴られても、意見を伝えたいので、後々気も変わるから「まあまあ、また来たら〜」って言える。

小川：最後の「完全に追い詰めない」言葉が重要ですね。私は仲卸人にもなりましたが、「おおらかなボス」とか「威厳のあるボス」という理想像を決めてふるまっても、持ち逃げされるんです。だから、あらかじめ商売の帰結や人間関係のありかたを考えるのではなく、その場その場で目の前の相手と真剣に向き合うしかない。

上田：それを実行するには、今日の自分がどんな心の状態にあるか、

いつも丁寧に見つめなくちゃ。ネガティブな場合は、受け止めきれないことをきちんと返すことも必要だから。

小川：マチングいわく、人は片手を出して与えられると、次は両手を出し、それでも与えられると、その次は帽子を取ってひっくり返す。一見、冷めた人間観に見えますが、「俺たちは仲間でありそれ以上でも以下でもない」と確認しあうことは重要です。無理して応えようとしても関係は維持できないし、「助ける／助けられる」の関係が固定されてしまうと仲間としての対等性が失われます。人間関係のポイントを彼らは知って実行しているんです。

役割をつくらないオープンな場所

上田：私は2003年、「表現と自立と仕事と社会」をテーマに「ココルーム」を新世界で立ち上げました。困難な状況にある人たちのよろず相談にのることもあります。生きることが表現ですから。2008年に釜ヶ崎へ移り、商売という名目ではなく場を運営しています。周囲からは「真面目に商売しろ」と怒られ続けていますが(笑)。

小川：お客さんに怒られているんですね(笑)。

上田：インフォショップ・カフェ「ココルーム」は喫茶店だけど、お金を払わないお客さんも毎日出入りします。騒ぎ立てられたり、警察沙汰になったり……。ややこしいお客は出入り禁止にして、サービスしてきちんと商売しなさいという意味だと思います。

小川：なるほど。ただ、そうしてしまうと、今のオープンな雰囲気も崩れてしまいそうですね。日本では、支援なのかビジネスなのか曖昧だからこそ機能するような場は、理解されにくいのかもしれません。ただ曖昧な場をどんどん制度化していくと、逆に支援をする一受けることそれ自体のハードルが上がってしまう。

上田：新世界で活動していた時は、若年層のアートによる包摂型就労支援もしていたんですよ。家と職場の人間関係だけではなく、



photo: Mai Narita

表現やアートによってつながる第三の場所がいるのではなかろうかと。釜ヶ崎はもっと深刻で、関係性が断ち切れた本当に無縁の人が死んでいくから、ココルームは誰もが入れる場にしています。

小川：私は「暴動」の調査もしているんです。タンザニアでは、路上商人たちを立ち退かせる一斉検挙が実施されています。それに対して、商人たちは、まちを占拠するなどして抵抗します。政府は、渋滞や美観などに配慮して、都市空間を管理しようとして動いているわけです。また、路上を楽に通行したいと思う市民もいます。ストリートの空間ではさまざまな権利の主張や想いが拮抗しているんですね。そういうところで水が溢れるように暴動が起きる。それは単純に御上と市民がいて、アウトローがいるのではなくて、互いの微妙な願望を調整しながら、路上空間が動いているからです。

上田：そうなんです。路上は、せめぎあう“際々”の場所。だからエネルギーに満ち溢れていておもしろいんですね。

不関与規範のジレンマ

小川：タンザニアは、都市人口に対して正規の雇用機会が2割強しかないんです。仕事の得られない8割弱は零細自営業や日雇い労働で生計を維持するインフォーマルセクターと呼ばれる人たちで、その約半数が零細商人。つまり、路上商人はマジョリティなんです。

上田：釜ヶ崎も2年前まで、南海電車の高架下沿いの道にはズラッと泥棒市が並んでいました。人の家から取ってきたと思われるゴミの詰まったゴミ袋が1袋100円で売られていたり(笑)。社会のあらゆる括りから逃れて来た人が集まっています。

小川：対談前に釜ヶ崎をご案内いただいて印象的だったのは、「不関与規範」をめぐる態度でした。状況は異なりますが、私がタンザニアでも感じていたことです。地方から都市へと出稼ぎにきた若者の間でバックグラウンドを聞くのは野暮であり、ストリートの文化で

は本名でなくとも関係を築ける。人の絆やつながりをつくっていくとき、「関与しない」部分をどんなバランスでつくるかが難しいなど。

上田：釜ヶ崎では、飲み屋で意気投合するとよく驕り合っこをするそうです。でも時間になると「じゃあこのへんで」と言って、名前も、どこのドヤ(宿泊所)に住んでいるかも聞かずに別れる。その規範のままいくとうっかり孤独死になってしまうんですね。

小川：そうですね。ふらっと消えていく人がいても詮索しない。でも、だからこそ、みんながある種、楽に生きていけるのだと思います。

上田：路上だったら目立つから亡くなればわかる。生活保護という制度に乗ることで、バランスが崩れてしまうんですね。

小川：日本における“つながりを大事に”という言葉は、特定の生活状況にある人たちには重要ですが、釜ヶ崎やタンザニアでは必ずしもそうではない場合があると思うんですよ。絆やつながりと言っても、その人の生活状況やライフステージによって変わってきますよね。

上田：このまちは昔は、運動団体・住人・労働者・行政の方向性がバラバラでした。10年ほど前から一緒に議論する場ができて、子どもたちの未来を話す風景が生まれています。不関与と関与のあいだにあるバランスを見極めることは難しいですが、粘り強い対話を重ねて合意がつけられている。そして、個人レベルの日々の積み重ねが細かい折り合いをつけています。本当に大変なことですが、ある意味それが自治と言えるのではないかなと、私は思っているんです。

上田假奈代
Kanayo Ueda

1969年生まれ。詩人。NPO法人こえとことばとこころの部屋(ココルーム)代表、釜ヶ崎芸術大学主宰。1992年より全国各地で詩のワークショップを開催。他者への聞き取りを行い詩作する「こころのたねとして」など、さまざまなメソッドを開発。

小川さやか
Sayaka Ogawa

1978年生まれ。日本学術振興会特別研究員(PD)、国立民族学博物館研究戦略センター機関研究員、助教などを経て、現在、立命館大学大学院先端総合学術研究科准教授。主な著書に「都市を生きぬくための叢知ータンザニアの零細商人マチングの民族誌」(世界思想社、2011年)など。

オープン北加賀屋 地域の出来事をひらく、伝える

おとなとこどもの 北加賀屋みんなのうえん日記

みんなのうえんの大人・子どもメンバーが綴る農園の日々

L M

おいしい冬の遠足、みんなで奈良へ！
Date 2014.01.13 Venue 奈良「清澄の里 粟」



原 奈緒 (小学校4年生)
また、あわのごはんを食べたいし、あわのやぎに会いに行きたいです。

奈良にある農家レストラン「清澄の里 粟」へ行ってきました！ 料理研究家の堀田裕介さんからケータリングのレクチャーを受けたとき、「美味しい感覚を共有する」ために勧められたレストランです。大和の伝統野菜が中心のお料理は、見た目も色鮮やかで、どれも口に入れた途端に美味しい、つい笑顔になってしまうものばかり。お店の皆さんの対応も終始とても心地良かったです。自然農法の畑にご案内いただき、「あまねゆき」というかぶの収穫もさせてくださいました。「虫対策」や「マルチ」「肥料に米糠」など、どれも勉強になり、みんなのうえんでも取り入れられそうなものは、今後に活かしていきたいです。また行きたいと思わせる素敵な場所でした。

筒井千浪 (みんなのうえんメンバー)
好きな野菜はブロッコリー。なかでもスティックセニョールが甘くて好きです！



コーポ北加賀屋のいま

多分野で活躍する協働スタジオの動き

C



「今ポーランドが面白い#2」大阪編
Date 2013.10.26 Venue コーポ北加賀屋

2011年に新宿ピットインで第1回が開催されたこのイベント、第2回である今回は主催である内橋和久氏の強い想いもあり、東京に続いて大阪でも開催。全編、さまざまな組み合わせで即興演奏をする構成のなか、ポーランド勢の多くは背景にアカデミックを思わせる高い技術を聴かせたが、それ以上にその場の音に対する柔軟さを感じた。本編最後、ライブアルバムも残す内橋&グルチンスキの2人にドラムのロギェヴィッチが加わったトリオでの演奏が白眉。また、半野田拓の音のオリジナルさが飛び抜けていたのも印象的だった。

出演：ユレク・ロギェヴィッチ/ビョトル・ドマガルスキ/パツワフ・ジンベル/ミハウ・グルチンスキ/DJレナル/マチェイ・オバラ/ダグナ・サトコフスカ/ほか

杉本喜則 (HOP KEN)

2013年8月、大阪は立売堀にてCD・レコード・雑貨etcのお店「HOP KEN」をオープン。火曜定休。ライブの企画、サポートなどもやります。

素晴らしきまちかど芸術

公共空間における珍風景を巡る

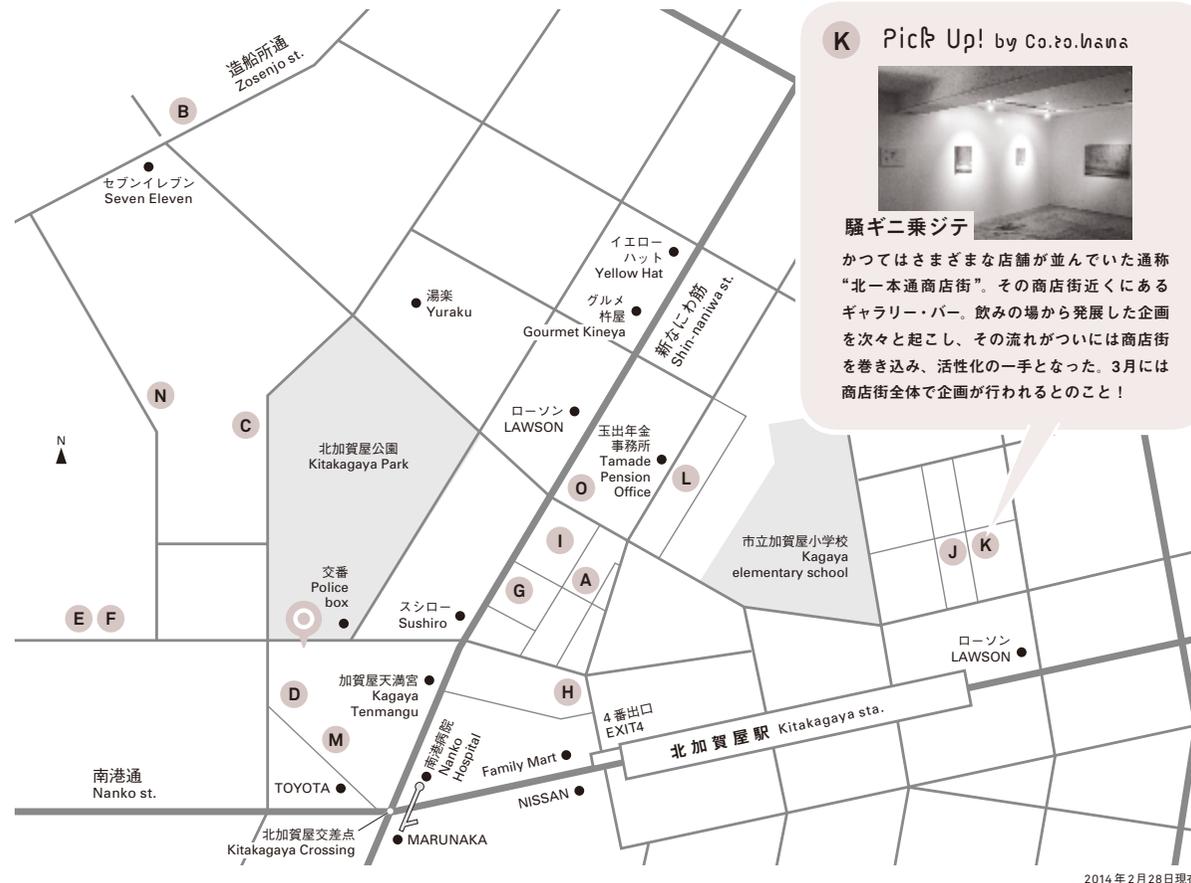
都市のミステリーサークル



何度も激突され、地面まで陥没し、あげくトラテープでぐるぐる巻かれた街灯。それを執拗なまでに囲うコーンの群れから、管理者の複雑な想いが伝わる。人の配慮と凡ミス積み重ねが生んだ、ある駐車場の風景。

有佐祐樹 (MAD荘管理人)
コーポ北加賀屋に住んでいます。グラフィックデザイナー、愛猫家。

おおさか創造千島財団では、芸術・文化が集積する創造拠点として再生が進んでいる北加賀屋エリアを、大阪における創造拠点のモデルケースとして、情報発信/ネットワークの支援を行っています。



2014年2月28日現在



K Pick Up! by Co.to.hana



騒ギニ乗ジテ

かつてはさまざまな店舗が並んでいた通称“北一本通商店街”。その商店街近くにあるギャラリー・バー。飲みながら発展した企画を次々と起こし、その流れがついには商店街を巻き込み、活性化の一手となった。3月には商店街全体で企画が行われるとのこと！

Viewpoint from Overseas

北加賀屋を歩く

貨物船が行き交う工業的な港町、マルセイユ。2013年に「欧州文化首都」*に選定され、古い工業地帯と再接続するため、数々の優れたアート・プロジェクトが生み出されました。それと同じ動きのはじまりを、北加賀屋にも感じます。

*EUが指定した加盟国の都市で、1年間にわたり集中的に各種の芸術文化に関する行事を展開する制度

ローラ・ルブー (アーティスト)
1982年フランス、マルセイユ生まれ。パリ、マルセイユを拠点に国内外で作品を発表。www.lolareboud.com



- [A] ク・ビレ邸 [インフォメーションセンター] 北加賀屋2-8-8 quvillezthe.wordpress.com
- [B] クリエイティブセンター大阪 (CCO)
- [C] コーポ北加賀屋 [協働スタジオ] 北加賀屋5-4-12 www.coop-kitakagaya.blogspot.jp/
- [D] おしま絵画教室 [アトリエ] 北加賀屋5-2-31 www.takayukioshima.jimdo.com/
- [E] 芸術中心●カナリヤ条約 [アートスタジオ] 北加賀屋5-5-35 canaryconvention.wordpress.com/
- [F] 鞆籠館 [シェアハウス] 北加賀屋5-5-35
- [G] AIR大阪 (アーティスト・イン・レジデンス大阪) [宿泊施設] 北加賀屋2-9-19 airosaka.com/
- [H] Co.to.hana (コトハナ) [デザインオフィス] 北加賀屋2-10-21 www.cotohana.jp/
- [I] 隠れ屋1632 秘密基地 [手づくりメガネ&アクセサリー] 北加賀屋2-8-9 www.kakureya1632.com/
- [J] CAFÉ DJANGO [自家焙煎コーヒー店] 北加賀屋1-6-28 カガ第2ビル1F www.django.jp/
- [K] 騒ギニ乗ジテ [ギャラリー・バー] 北加賀屋1-6-1 カガ第1ビル1F sawaginijoujite.jimdo.com/
- [L] 北加賀屋みんなのうえん① [コミュニティファーム] 北加賀屋2-4-6 http://minnanouen.jp/
- [M] 北加賀屋みんなのうえん② [コミュニティファーム] 北加賀屋5-2-27 http://minnanouen.jp/
- [N] メガアート倉庫 (仮) [オープン・ストレージ] 北加賀屋5-4-48
- [O] b (フラット) Gallery [カフェ・ギャラリー] 北加賀屋2-3-17 flat9gallery.wix.com/flatgallery

※ご見学希望の場合は、事前に Web などで情報を確認いただくか、各施設にお問い合わせください。



リレーコラム つないで見える、人とまちの多彩なあり方

まちを意識すること

岡昇平

Shohei Oka



設計事務所岡昇平代表、仏生山温泉番台、徳島大学工学部卒業、日本大学大学院芸術学研究所修了、みかんぐみを経て高松に戻る。建築の設計を本業としながら、家業の温泉を運営。まち全体を旅館に見立てる「仏生山まちぐるみ旅館」のほか「仏生山まちいち」「ことでんおんせん」「50m書店」「おんせんマーケット」などをみんなで始める。

> 岡さんが選ぶ次のコラムニストは…
山下裕子氏(全国まちなか広場研究会理事)
日本の新しい広場のあり方を提案されている方です。(岡)

「違う」ということの豊かさ

山田 創平

Sohei Yamada



1974年群馬県生まれ。京都精華大学教員。名古屋大学大学院博士課程修了。文学博士。専門は地域研究。著書に「ジェンダーと「自由」」(共著／2013)、「ミルフィユ04ー今日のつくり方」(共著／2012)などがある。各地のアートプロジェクトで、リサーチやコンセプトデザインに関わるほか、自らも作品を制作している。

> 山田さんが選ぶ次のコラムニストは…
樋口真幸(アート・アドミニストレーター)
芸術を通して社会を変えようとする、現在最もトンがったアクティビストです。(山田)

まちのみんなが「まち全体」のことを「自分の家」だと思ってみたらどうかと考えている。そうすると、まちの楽しい出来事が自分の喜びのように感じられるし、道に落ちているごみも自然に拾うようになるのではないかと思う。みんながほんの少しでもそのような想いを持ちながら暮らすようになると、とても素敵なまちになるのではないだろうか。

自分の家のように想うためには、まずまちのことを今までとは違う新しい視点で意識することから始めてみればよいと思っている。一人ひとりがまちのさまざまなことに目を向けながら暮してみる、というようなことなので簡単にできる。お気に入りの場所を探してみる。近所のおばあちゃんと話をしてみる。まちの境界はどこなのかと歩いてみる。気になるお店にも行ってみる。そんな小さなことから始めてみればよいのだと思う。もっとまちのことを好きになったり、自分のことのように感じられるようになると思う。

現在、香川県高松市仏生山町で進めている

「仏生山まちぐるみ旅館」は、まち全体をひとつの旅館に見立てる取り組みである。実際に旅館という建物は無く、客室や大浴場、食堂、カフェ、物販店などさまざまな役割がまちのなかに点在している。道を廊下とし、まちを巡ることで旅館の機能を満たす。宿泊者はまちと旅館の魅力を同時に楽しむことができるし、住民も新たな交流を通じて豊かになれる。「仏生山まちぐるみ旅館」の大きな目的のひとつは、まち全体を意識するきっかけをつくることだ。普段の暮らしのなかからまち全体を俯瞰して見ることができるからである。

10年かけて進めているこの取り組みは2012年4月にひとつめの客室となる「緑側の客室」が開業した。仏生山温泉に入浴し、「緑側の客室」で宿泊し、朝は公園を散歩し、カフェやうどん店で朝食を食べる。まちを巡りながら楽しみ、暮すように滞在できる流れが小さいながらも始まっている。

に決まっている。でもそれは人類の普遍的な「回答」ではなく、おそらく私の「個人的な考え」なのだ。余命や健康に対する思想は人によって異なる。善悪で語ることはできない。

その時に自覚したのは、「私」を主語に語ることの大切さだった。私はいまエイズ予防に限らず、芸術やまちづくりの現場に多く関わっている。私の念頭にあるのは「戦争のない社会」「人々の命が理不尽に奪われない社会」「多様で、少数者の人権が守られる社会」という理想だ。しかしそれはあくまでも「私の」理想だ。一般論ではなく、私の考えとして語ることの大切さ。私は「私の」理想を語り続けたい。そして他の人々の理想を聞きたい。「私」を主語に語ること。私を主語に社会を語ること。私を主語に地域や歴史を語ること。もっと自由でもっと多くのそれぞれの「私の声」を聞きたい。そこで立ちあがる多様な「違い」の豊かさを求めて、これからさまざまな場所に赴きたいと思っている。

TOPICS from CFCO

おおさか創造千鳥財団(CFCO)は、大阪で行われる芸術・文化活動の支援を通じて、地域の新たな価値を創造し、創造的かつ文化的に多様な地域社会の創出を目的として設立されました。

NEWS

01 日仏若手作家交流展

「みなとの物語」開催報告

2013年10月18日～20日の3日間、大阪、フランスの若手アーティストによる展覧会「みなとの物語－咲くやこの花賞受賞者、フランス新鋭作家展－」をクリエイティブセンター大阪(名村造船所大阪工場跡地)にて開催いたしました。国際的に活躍する日仏6作家の作品群が、会場全域的に展開。今回参加したマルセイユ出身のLola REBOUD(ローラ・ルブー)は、韓国・中国・日本をつなぐ大阪の海運業をテーマに制作したビデオ・インスタレーションを通し、地理や環境にまつわる問題をあぶりだします。ちなみにLolaはクリエイティブセンター大阪のユニークな魅力に惹かれ急遽来阪を決めたと語ってくれました。19日は「みんなのうえん祭」、住之江区主催「すみのえアート・ビート」が同時開催。雨天にも関わらず来場者は延べ3000名と、アート関係者のみならず地域住民の方々にも開かれたアートの祭典となりました。

photo: Tomonaki Hayakawa



Lola REBOUD, Enrique RAMIREZ 《Osaka, (The day that was not)》インスタレーション(2013年)

ACTIVITY 2013年度 スペース助成／創造活動助成

01 大橋可也 & ダンサーズ + 空間現代大阪公演「ライノ」

http://dancehardcore.com/

オルタナティブロック×ハードコアコンテンポラリーダンス初の大阪公演は、名村造船跡地ドラフティングルームの広大なスペースでの残照の中に始まり、消えゆく人影、鳴り響く轟音、天井一面に並べられた蛍光灯の点滅、変化し続ける時間と空間に置かれた身体を強烈に意識させる作品となりました。



photo: GO

文・大橋可也(一般社団法人大橋可也&ダンサーズ代表理事・振付家)

02 おおさか創造千鳥財団

助成活動報告会「+ C」開催報告

2013年11月30日、クリエイティブセンター大阪にて、クラウドファンディング形式の助成活動報告会&懇親パーティを開催いたしました。報告会では13団体がプレゼンテーションを行い、参加者はサポートしたい活動団体に投票、得票上位3団体に参加費の全額を寄付する仕組みを採用。報告者も含め約100名が参加しました。また、ゲストのHAPSディレクター声立さやか氏よりアーティスト支援の取り組みをご紹介いただきました。懇親パーティでは、河合政之with浜崎亮太《ビデオ・フィードバック・ライブパフォーマンス》によるエフェメラルな映像とサウンドに酔いしれ、北加賀屋みんなのうえんで収穫した野菜を使った体が喜ぶケータリングを味わい、未来の活動につながるような、多分野が交流する状況が生まれました。投票結果：1位 ファブラボ北加賀屋、2位 ドットアーキテツ、3位 インセクツ/contact Gonzo(同率で2団体)



tanet.によるプレゼンテーションの様子

02 「tanet.(都市菜園ネットワーク)」

http://tanet.info/

今年の4月に「都市菜園を盛り上げる」をテーマに大阪市内の20～30代の若手都市菜園関係者で活動を立ち上げました。「えびす橋人参畑化計画(フラッシュモブ)」「食べられるモザイクアート food scape!」「都市菜園ツアー」など都市菜園とアートをからめた企画を開催。Webサイトでも情報発信しています。



photo: Kenishi Nawashiro

文・多田衣里(tanet.)



北加賀屋の発明家たち

2013年1月、北加賀屋に発足した「FabLab Kitakagaya」。必要なものを自分たちの手でつくる、という思想のもと生まれた市民工房の活動を取り上げます。

File 1

羽ばたき飛行機の 高橋祐介

クリス・アンダーソンの著書『MAKERS』を読み、FabLabに興味を持った高橋さん。同好会の中だけでつくっていた羽ばたき飛行機の製作に3Dプリンターを導入し、骨組みを製作。「インターネットの普及以降、作品をシェアして生まれる反応が嬉しいんです」と自慢の愛機を手笑顔で語る。今では世界中からワークショップのオファーが後を絶たないのだとか。「FabLabにいて、さまざまな分野でものづくりをする人々とアイデアを共有しながら、時には教え合い、子どもの頃の想いを形にしています」。新たなものづくりの在り方を楽しんでいる。

高橋祐介 / Yusuke Takahashi
3Dプリンターでオリジナル羽ばたき飛行機を製作。さまざまな場所でワークショップを開催。

高橋さん作《空飛ぶパンツ》



▼作品の設計データと組み立て説明書がダウンロードできます！
<http://blog.goo.ne.jp/flappingwing/>



Comment

生物は常にその生存環境に適応進化する必要に迫られてきた。もとは鰓、鰭、手足であったであろう突出した部位が、いかにして羽ばたき機構を手にしたのか。さまざまな研究があるなかで、手を動かすことが即ち考えることであるという彼の哲学がプレイフルかつフリーダムにその謎を玩味している。あとはおそらくハンナ・アーレントの登場を待つのみである。

津田和俊 (大阪大学助教、FabLab Japan Network)

paper C No.007
by Chishima Foundation for Creative Osaka

「paper C」は、おおさか創造千島財団が発行するフリーペーパーです。関西におけるクリエイティブな活動を、財団が主に拠点を置く大阪・北加賀屋エリアから発信しています。

発行日：2014年2月28日

発行元：一般財団法人 おおさか創造千島財団 事務局

〒559-0011 大阪市住之江区北加賀屋2丁目11番8号千島ビル4階

TEL 06-6681-7806 FAX 06-6681-6188

URL www.chishimatochi.info/found/

編集ディレクション & 編集：多田智美 [MUESUM] 編集：永江大 [MUESUM]

アートディレクション：原田祐馬 [UMA/design farm] デザイン：廣田碧 [UMA/design farm]